

院内研究大会 第15回院内医療マネジメント大会

日帰り脊髄造影検査を安全に受けるための取り組みと看護の実際

外来Bブロック 山本 保代 鈴木佐知子
日野貴美子 中山 節子
柴田 美樹 野村 秀子

脊髄造影検査は、脊髄疾患の術前評価として数多く行われている。これまで、当院では2泊3日の入院を必要とし、副作用出現予防のため、輸液を行いながらの観察と十分な安静をとらせるようにしてきた。

しかし、近年、水溶性造影剤の導入で副作用の出現はまれであることや在院日数の短縮化、また手術患者の増加のため検査入院用のベッドの確保が困難になってきたため、医師より日帰り検査としたいと要請された。平成25年1月より重篤な合併症がない患者に対し、日帰り検査として行われることになり、安全、安楽に検査が受けられるよう取り組んだ。その結果、大きな問題もなく検査は行われている。1年間の看護を振り返り報告する。

I. 取り組んだ内容

1. 医師、関連部署との話し合い

- 1) 予約に関すること
- 2) 放射線科との調整
2. 科内での取り組み
 - 1) 手順作成
 - 2) 説明用紙作成
 - 3) 安静場所の検討

II. 結果

1. 外来検査に移行して1年が経過した。重篤な副作用は認められず、外来検査としておこなっている。
2. 患者の待ち時間が長い

III. 今後の課題

1. 患者の待ち時間改善
2. 検査後の安静にする場所対策

トラブル時の電話対応マニュアル再作成とスタッフ指導 ～看護の標準化を目指して～

人工透析室 望月見奈子 小林 桂子
石川千奈美

当院の腹膜透析（以下PDと略す）患者は現在5名となった。それに伴い、腹膜炎、カテーテル感染、出口部トラブルも増えてきた。

当院におけるPDトラブル時の電話対応は、日中は透析室看護師、夜間休日は救急外来看護師

が担当している。しかしPD担当看護師は少なく、休暇等で不在な時もあるので担当者以外が電話を受けた場合の対応をどのようにするかが課題となっていた。そこで誰でも標準的な対応ができるよう、具体的なトラブル時電話対応マニュアルを